

変わりゆく中国・杭州

中国・杭州日本人学校（2016～ ）

宇部市立東岐波小学校 河原 和美

1 はじめに

派遣1年目の2016年度、杭州は至るところで工事が行われていました。それは道路工事だけでなく、通り一体の建物の吹き替えもです。「通り一体」と書きましたが、見える限り全ての建物が壁の塗り替え中なのです。なぜこんなに工事が多いのか？答えはすぐに分かりました。9月に「G20」の開催を控え、街全体を化粧直ししていたのです。街並みを整えたら、次は人々「マナー」というソフト面です。美しく変わった街に「文明」という言葉とともにさまざまなスローガンが目につきはじめます。人々の暮らし方をもこれを契機に変えていこうという意図が伝わってきます。G20の開催中は、中心部は完全にロックアウトされ、近隣の住民は補助金をもらい、旅行などに行くよう指示されました。高鉄（新幹線）は杭州に停まらず、空港にはこのためだけに臨時ターミナルが造られました。



整備されたビルの外壁

思えば、このG20に向けての姿が、その後の中国生活を象徴している気がします。中国という国は、やるとなったらスピード感をもって始め、修正しながら完成に向かうエネルギーに満ちています。それはハード面でもソフト面でも同じです。結果、わずか3年しか住んでいないのに街と人の変化を実感し、驚かされます。ここでは、3年前と比較しながら今の杭州の姿をいくつか紹介したいと思います。

2 スマートフォンが無くては暮らせない

日本の皆さんもよくご存じのアリババの本拠地は、杭州にあります。そのためか他の地域よりもIT化が進んでいる印象で、特に電子マネー化は著しいです。3年前は現金での支払いをよく見ましたし、時にはATMからお金が出ない（紙幣の不足）という話も聞きました。けれど、今は現金で支払う姿を見ることは、



レンタル充電器

稀になりました。私自身もお財布を出すことはほとんどありません。全てをスマートフォンで済ませてしまいます。この支払い方法は生の肉が吊るしてあるようなローカルの市場でさえ日常的です。現金の支払いには嫌な顔をされるのです。ローカルの市場ですから、利用者は若者というよりはお年を召した方々が多いといえるかもしれません。そんな方々が当たり前スマートフォンを使いこなして



市場で目にするQRコード

いるのです。では、なぜこれだけ浸透したのか？電子マネーで支払う場合のみ行われる値引き、充実したデリバリー（コーヒー1杯からでも配送）の支払い、レンタル自転車（どこで乗り捨ててもOK）の利用などと、必要とする場面を挙げればきりがありません。つまり使わなければ明らかに不利益をこうむるのです。

とすれば、生活環境がこの支払方法に人々を誘導していったといえるかもしれません。こうなると、スマートフォンが使えないと生活は不便になりますし、バッテリーが切れると恐怖に感じることもさえます。充電が切れると困るのは、各商業施設も同じことです。それに伴って、無料でスマートフォンが充電できるスポットも増えています。

3 中国人って不親切？

中国に来たばかりのころ、生活用品を整えるために足繁くスーパーに通いました。拙い中国語とジェスチャーで「〇〇はありますか？」と尋ねると、まず「没有（メイヨウ：ありません）」の返事。結果、私が自信をもって言える単語第1号は「没有」になりました。ですが、同じことを他の店員さんに尋ねると結構あたり。そのときは「何と不親切な…」と、思ったものです。つい先日も部屋のシャワーの修理に来てもらったときです。シャワーは無事修理完了し、使えるようになりました。しかし、シャワーブースは修理で出たゴミの山。日本人からすると、ゴミは持って帰ってよと思いますが、こちらではそのようなことはあまりしてもらえません。

日本人からすると、「ちょっと、ちょっと…」と思うことは日常生活の中でよくあります。一見すると不親切に感じるこのような場面。でも、中国の人からすると当たり前なのです。意地悪をしているわけではなく、根底に「自分は修理をしにきた。掃除をするのは自分の仕事ではない。」という、仕事を分担する意識が強いのです。掃除だけでなく、日本では考えられないような些末な仕事をする人もいます。人口の多い中国ならではでしょうか。それで言えば、列に並ばないのは人が多いから？大声で話すのは他人に負けず主張するため？唾を吐くのは大気状況が良くないから？まあこうなると、こじつけのような気もしますが、後の三つは随分改善されているなど感じます。最近ではほとんどの人がきちんと並び、並ばない人が白い目で見られます。テレビCMや地下鉄での放送、街角のポスターによる「マナーを守ろう（具体的な姿が描かれた）キャンペーン」が功を奏してきたのでしょうか。この3年で人々のマナーは随分変わりました。

4 変わらないもの

改めて意識するようになったのは、二十四節気です。日本の春分の日や秋分の日がこれに当たりますが、中国の人はこの節気を大切にしています。それは、家族と過ごす伝統的な祝日だからです。社会が近代化されても、人々はこの日を大切にし、それぞれの故郷に帰っていきます。特に春節は特別です。旅行する人も増えてきたとはいえ、その多くは帰郷し家族と過ごす



端午節について中国語の授業

のです。家族を大切にするのは3年前も今も変わらないなと感じます。

5 おわりに

日本から会いに来てくれた人たちは、中国人のマナーに、街並みに、近代化に、良い意味で驚いて帰っていきます。日本で中国について報道されるとき、良いイメージで伝えられることは少ないのだと改めて感じます。日本にいと、それが全てです。けれど、実際に見ると違う姿に気が付きます。改めて、メディアのもつ力とその影響について考える機会となりました。

また、こちらで生活していると日本と同じようにはいきません。けれど、「同じでないから嫌だな」で終わってしまうと、毎日がとても辛いものになってしまいます。相手の考え方をちょっとだけ受け入れてみると、生活はとても楽しくなりました。日本の常識が世界の常識ではないことも感じます。他者を理解し、日本人としての自分について考える3年間となりました。